

NO. 302

じゅんあい

平成24（2012）年5月1日

数が満ちるまで



水甕から発見された人形

日本は250年もの長きにわたり、キリシタン^{だんあつ}弾圧がなされ多くの^{じゅんきょう}殉教者を出した国である。そのキリシタンの^{ちゆうせき}柱石は、高山右近であった。

たとえ^{とら}捕えられようとも、^{いた}殺されようとも死に至るまで忠実にキリストへの^{みさお}操を守る人々によって^{つづ}綴られてきたキリシタン^{しんこう}信仰——その^{ページ}一頁を今でも各地で^まかい間見る。

そして、最もその跡を残している所、それは五島列島である。

2011年11月10日昼過ぎ、九州五島出身のT氏がめずらしいキリシタンの遺品を携えて教会に来られた。

それは五島列島福江島の民家の庭に逆さになっていた高さ1m30cm程の破れた水がめの中に置かれていた外国からの宣教師ペアデレ像と、手を合わせ祈る髪の毛の長い背に十字が刻まれた女性像で、共に高さ15cm程の唐津焼の人形であった。

以前に、福江のある井戸の中より掘り出された同じような唐津の人形を紹介したことがあるが、それよりも共に倍ほど大きく、見ごたえがあり、より一層キリシタン達の信仰を思わせ、感動せずにおられなかった。九州一帯にすでにキリシタン弾圧の手がのべられ、彼らは五島へと逃げ、今日に至ったのであろうとT氏は語る。

さらに、285年も綿々と続いた旧家の台所のかまどの後ろにある柱の上の方に置かれて煙に燻され真っ黒になった恵比寿と大黒天の木像をも譲っていただけたと持って来られた。

恵比寿は胸に十字を抱き左手に魚を持っていた。大黒天は十字入りの俵の上に乗っており、裏に金洲と刻まれているのが印象深かった。

どこの家にもある恵比寿、大黒天……。しかし、しっかりと十字を印する大胆な信仰と、キリストへの情熱を見て、その当時へと私達をいざなうのであった。

「脚立に上って高い台より外して参りました。ススで真っ黒でした。」と息をはずませてT氏は語る……。

あゝキリシタン！ キリシタン達の信仰とキリストへの計り知れない愛に圧倒させられる。

思えば二千年前に十字架に架けられたキリストを、アリマタヤのヨセフとニコデモの二人が、「イエス様の屍を受け取りに参りました。『我らもまたイエスの弟子なれば』と。愛故、生命を注ぎ出された御主イエス・キリストに、彼らもまた命をかけてローマの総督ピラトのもとへ許可を受けるために進み行くその姿とピッタリと重なり合う。キリシタン達の生きざまに心が燃える。

「愛には愛を持ってお答えしようございます。」
長いキリシタンへの弾圧と迫害にもめげず、その信仰を守り通した彼らの熱き思いが迫って来て涙せずにおられない。

聖書には、このように書いてある。
「ある主の日のこと、わたしは“霊”に満たされていたが、後ろの方でラッパのように響く大声を聞いた。」
(黙示録 1 : 10)

「勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。わたしは、彼の名を決して命の書から消すことはなく、彼の名を父の前と天使たちの前で公に言い表す。」
(黙示録 3 : 5)

「わたしは、すぐに来る。あなたの栄冠をだれにも奪われないように、持っているものを固く守りなさい。勝利を得る者を、わたしの神の神殿の柱にしよう。彼はもう決して外へ出ることはない。わたしはその者の上に、わたしの神の名と、わたしの神の都、すなわち、神のもとから出て天から下って来る新しいエルサレムの名、そして、わたしの新しい名を書き記そう。」

(黙示録 3 : 11、12)



十字の記された恵比寿と大黒天

「小羊が第五の封印を開いたとき、神の言葉と自分たちがたてた証しのために殺された人々の魂を、わたしは祭壇の下に見た。彼らは大声でこう叫んだ。『真実で聖なる主よ、いつまで裁きを行わず、地に住む者にわたしたちの血の復讐をなさないのですか。』
すると、その一人一人に、白い衣が与えられ、また、自分たちと同じように殺されようとしている兄弟であり、仲間の僕である者たちの数が満

ちるまで、なお、しばらく静かに待つようにと告げられた。」

(黙示録 6 : 9～11)

金沢は、高山右近がキリシタンなるが故に預けられ、26年もの長い間過ごした地であり、右近との関わり、キリシタンとの関わりを強く持った地である。

“もしもあの^{だい}大禁教令^{きんきょうれい}がなかったなら、金沢の地は最も^{さか}栄えたキリシタンの町となったであろう。”と金沢のことを語ったトリゴ^{しんぶ}神父の言葉がこだまする。

明治の初め九州浦上より520名程のキリシタンが金沢に預けられ、明治2年から6年までの4年間^{くじゅう}苦渋に満ちた日々を卯辰山で彼らは過ごした。その中^{ちゅうぶく}腹に建てられし記念の碑^ひを忘れてはなるまい。

その碑^ひに刻^{きざ}まれし御^み言葉

「義^ぎのために迫害される人々は、幸^{さいわ}いである、

天の国はその人たちのものである。」 (マタイ 5 : 10)

九州五島よりのキリシタン達の所持品・遺品・遺物を見るにつけ、生きた彼らの魂とその信仰が迫ってきて離れない。

「耳ある者は、“^{れい}霊”^{しよ}が諸教会に告げることがよい。勝利を得る者には^{かく}隠されていたマンナ^{まん}を与えよう。また、白い小石^{せう}を与えよう。

その小石には、これを受ける者のほかにはだれにも^わ分からぬ新しい名が記されている。」 (黙示録 2 : 17)



殉愛キリスト教会

牧師：山縣 實

〒920-0814 石川県金沢市鳴和町タ 210 Tel・Fax 076-251-2247

E-mail : jun-i-yamagata@ishikawa.email.ne.jp